

タマネギ

○管内の生産状況（2020年）

・栽培面積 1,080ha

・出荷量 41,232t

・生産者戸数 142戸

* 栽培品種の特徴 *

北はやて2号

早生品種であり、8月中旬～9月上旬頃まで出荷します。もともと辛味が少なく生食向きのタマネギで、貯蔵性はありませんが、多目的に使うことができます。

北もみじ2000

早生品種のオホーツクと中晩生品種のスーパー北もみじの中間に位置する中晩生品種です。晩生品種ですが、きわめて貯蔵性が高く、球形は地球型です。

オホーツク222

早生品種オホーツク1号の改良型で、規格外品の発生が少なく玉揃い・球色ともに優れた品種です。辛味が少なく貯蔵性・食味ともに良好です。

バレットペア

早生品種で、8月中旬～9月上旬まで出荷します。辛味が少なく、サラダなどの生食に適しており、球形は豊円球です。



スーパー北もみじ

球の締まりがよく煮崩れしません。シチュー・カレーなど煮物には最適です。また、一番の特性としては日持ちが抜群に良く、ご家庭でも特に長くご使用いただけます。

* 生産・出荷の取組み *



JA管内は、道内有数の産地です。F1種*のタマネギを生産しており、20kg 詰めダンボールで全国33カ所の市場や量販店に向けて、8月～翌年4月までの長期間出荷を行っています。

また、減農薬栽培タマネギの生産・組織化を進めるとともに、栽培技術の確立に努めており、道の認証制度である「YES! clean」を取得して生産しているものもあります。

※「F1」とは、「一代雑種」や「交配種」ともいわれる、一代に限って優秀な種のことです。これは、種苗会社が品種や個性の違ったものをかけ合わせて作った種で、両親それぞれの良いところを受け継いでいます。

そのため、収量が高い上に、病気に強く、品質にむらがないので、色々な野菜づくりに活かされており、現在つくられているほとんどのタマネギも、この「F1」種が栽培されています。



月別出荷状況

